

東海道線・中央線において、 またまた列車発車時の立席ホーム確認を試行

東海道線・中央線の運輸区では2月1日から1か月、運転士に対し車掌がドアを閉めたときに運転台から顔を出しホームの確認を行うように訓練で周知されました。この確認を行う駅は東海道線では、岐阜・大府・刈谷、岡崎駅、中央線では金山・千種・大曾根駅で、時間が決められていて7:00～8:30までで該当する駅での停車時分が45秒以上ある場合としています。以前にも同様の立席確認を試行しましたが何らかの理由により中止になっています。

ワンマン列車の安全は知らん顔

先日行われた業務委員会でワンマン発車時のホーム確認について議論になりました。右側にホームがある場合にはホームの鏡で確認しますが、ホームが暗い、鏡が曇って見えないなど確認できない状況が起きています。会社は目視で確認してくださいと指導していますが、目視後に運転席まで戻る間に何かあってもそのまま発車してしまう可能性もあります。ワンマン拡大で、ますます危険度は上がっていきます。この様なことに対しては対策を立てません。

駅員の配置をせよ！！

岐阜駅、大府駅、刈谷駅、岡崎駅、金山駅、千種駅、大曾根駅で、それほど発車時に不安全が発生しているならば、この様な対策ではなく、まずもって駅員等の配置をするべきです。お金をかけず思いつきのような対策では本当の安全は確立できません。

弊害も予想

弊害も予想されます。「お客様とのトラブル」「慌てた窓締めによる労災発生の危険性」「ブザー未受領による発車事故」「信号確認が疎かになる」「発車時刻の確認が疎かになる」「パイロットの確認が疎かになる」などなど多くの事柄が予測されます。会社は一つ一つ確実に行えば間違えは起きないと言うでしょうが、弊害が起きる可能性は高まるのも事実です。やるのは生身の人間です。時間内ならば何でもやらせろという発想では安全は確保できません。

次から次へと基本動作を変え、またやることを増やすことは、目の前しか見ていないということであり、過去から作り上げてきた安全を蔑ろにする愚策でしかない。

黙っていても安全は脅かされるJR東海労は発信します！